

国立大 2019年度センター試験「理科②」「地歴・公民」2科目受験者の成績利用方法

表はセンター試験における、各大学の「理科②」「地歴・公民」2科目受験者の成績利用方法を一覧にしたものです(河合塾調べ)。

- 「第1解答科目」欄に「○」があれば第1解答科目の成績を、「高得点科目」欄に「○」があれば2科目のうち得点の高い科目を利用することを表します。「-」はその教科を課していないか、2科目必須を表します。
- ★を付した大学は2019年度より新たに第1解答科目の成績を利用する大学を表します。
- 「第1解答科目」の成績利用を指定し、「理科②」または「地歴・公民」が他教科との選択で最大2科目まで利用を認める場合、下記のA・Bの2通りの採点方法があります。一覧表上では、イレギュラーなB採点を採用する大学について、○の後にBを付しています。
- 掲載内容は変更の可能性もありますので、詳細は必ず各大学の学生募集要項にて確認してください。

「第1解答科目」の成績利用を指定し、「理科②」「地歴・公民」が他教科との選択で最大2科目まで利用を認める場合の採点方法

<A採点>
第1解答科目を含んだうえで、最も得点が高くなる選択科目の組合せを採用する(第1解答科目を使わずに、第2解答科目とその他教科を組合せることは認めない)

<B採点>
第1解答科目とその他教科から得点の高い科目順に利用していき、第1解答科目が利用された場合に限り、その教科の第2解答科目の利

(採点例)数・理2→2
C君の受験科目=数学②:数学ⅡB(65点)、理科②第1:物理(60点)、理科②第2:化学(80点)
D君の受験科目=数学②:数学ⅡB(60点)、理科②第1:物理(65点)、理科②第2:化学(70点)

A採点の場合:数学+理科(第1)と、理科(第1+第2)とを比較し、高得点となる組合せが採用される
C君=物理(60点)+化学(80点)=140点
D君=物理(65点)+化学(70点)=135点

B採点の場合:数学と理科(第1)を比較し、理科(第1)が高得点であれば、残りは数学と理科(第2)から高得点科目を採用する
C君=数学ⅡB(65点)+物理(60点)=125点
D君=物理(65点)+化学(70点)=135点

大学	理科②		地歴と公民		備考
	第1解答科目	高得点科目	第1解答科目	高得点科目	
旭川医科	-	-	○		
小樽商科		○		○	
帯広畜産	-	-	○		
北見工業	-	-	○		
釧路公立	-	-		○	
公立ほこだて未来		○	-	-	
札幌医科		○	○		<保健医療-看護・作業療法>理②は指定科目を第1解答科目で受験すること(判定は高得点を利用)
札幌市立	○		○		
名寄市立		○		○	
北海道	-	-	○		
北海道教育	○		○		
室蘭工業	-	-	○		
青森県立保健	○		○		
青森公立	-	-	○		
弘前	○		○		
岩手	○		○		
岩手県立		○		○	
東北	○		○		
宮城		○		○	
宮城教育	○		○		
秋田	○		○		
秋田県立	○		○		
秋田公立美術		○		○	
国際教養		○		○	
山形	○		○		
山形県立保健医療	○		○		
山形県立米沢栄養	○		-	-	<後期>化・生2科目を受験した場合は第1解答科目を使用
会津		○		○	
福島	○		○		
福島県立医科	-	-	○		
茨城	○		○		
茨城県立医療	-	-		○	
筑波	○		○		
筑波技術	-	-	-	-	
宇都宮	○		○		
群馬	○		○		
群馬県立県民健康科学	○		-	-	
群馬県立女子	○		○		文は高得点科目を採用
高崎経済	○		○		
前橋工科		○	-	-	
埼玉	○		○		
埼玉県立	○B		○B		

大学	理科②		地歴と公民		備考
	第1解答科目	高得点科目	第1解答科目	高得点科目	
千葉	○		○		
千葉県立保健医療		○		○	
お茶の水女子	○		○		
首都大学東京	○		○		
電気通信	-	-	○		
東京	-	-	○		
東京医科歯科	-	-	○		
東京外国語	○		○		
東京海洋	○		○		
東京学芸	○		○		<中等－音楽・美術>地歴1科目と公民1科目を受験した場合は、第2解答科目の使用を認める
東京芸術	○		○		
東京工業	-	-	○		
東京農工	-	-	○		
一橋	○		○		
神奈川県立保健福祉	○		○		
横浜国立	○		○		
横浜市立	○		○		
上越教育	○		○		
長岡技術科学	-	-	○		
長岡造形	○		○		
新潟	○		○		
新潟県立	○		○		
新潟県立看護	○		○		
富山	○		○		
富山県立		○		○	
石川県立	○		○		
石川県立看護	○		○		
金沢	○		○		
金沢美術工芸	○		○		
公立小松	○		○		<国際文化交流－国際文化交流－中>地・公いずれもが得点上位となる場合は、第2解答科目の得点を利用する
敦賀市立看護		○		○	
福井	○		○		
福井県立	○		○		
都留文科		○		○	
山梨	○		○		<生命環境－地域社会システム>高得点科目を採用
山梨県立	○		○		
信州	○		○		
長野		○		○	
長野県看護	○		○		
長野県立	○		○		
公立諏訪東京理科		○		○	
岐阜	○		○		
岐阜県立看護	○		○		
岐阜薬科	-	-	○		
静岡	○		○B		<人文社会科学－法－後>B採点
静岡県立		○		○	
静岡文化芸術		○		○	
浜松医科	○		○		
愛知教育	○		○		
愛知県立	○		○		
愛知県立芸術		○		○	
豊橋技術科学	-	-	○		
名古屋	○		○		
名古屋工業	-	-	○		
名古屋市立	○		○		
三重	○		○B		
三重県立看護		○		○	
滋賀	○		○		
滋賀医科	○		○		
滋賀県立	○		○		
京都	○		○		
京都教育	○		○		
京都工芸繊維	○		○		
京都市立芸術	○		○		
京都府立	○		○		
京都府立医科	○		○		
福知山公立		○		○	
大阪	○		○		<経済>地歴を第1解答科目に指定
大阪教育	○		○		
大阪市立	○		○		
大阪府立	○		○		
神戸	○		○		

大学	理科②		地歴と公民		備考
	第1解答科目	高得点科目	第1解答科目	高得点科目	
神戸市外国語	○		○		後期は高得点科目を採用
神戸市看護	○		○		
兵庫教育	○		○		
兵庫県立	○		○		
奈良教育	○		○		
奈良県立		○		○	
奈良県立医科	○		○		
奈良女子	○		○		
和歌山	○		○		
和歌山県立医科	○		○		
公立鳥取環境	○		○B		
鳥取	○		○		
鳥根	○		○		
鳥根県立	○		○		<人間文化・総合政策一前>地歴1科目と公民1科目を受験した場合は、第2解答科目の使用を認める
岡山	○		○		
岡山県立	○		○		
★新見公立	○		○		<看護>高得点科目を採用
尾道市立		○		○	
県立広島	○		○		
広島	○		○		
広島市立		○		○	
福山市立		○		○	
山陽小野田市立山口東京理科		○		○	
下関市立		○		○	
山口	○		○		
山口県立	○		○		<国際文化>他の選択科目を未受験の場合に限り、理②2科目、地公2科目の使用を認める
徳島	○		○		
鳴門教育	○		○		
香川	○		○		
香川県立保健医療	○		○		
愛媛	○		○		
愛媛県立医療技術		○		○	
高知	○		○		
高知県立		○		○	
高知工科	○		○		
北九州市立	○		○		
九州	○		○		
九州工業	-	-	○		
九州歯科	-	-	○		
福岡教育	○		○		
福岡県立		○		○	第2解答科目の得点が第1解答科目より20点以上高い場合は第1解答科目を使用
福岡女子	○		○		
佐賀	○		○		
長崎	○		○		
長崎県立	○		○		
熊本	○		○		
熊本県立	○		○		
大分	○		○		
大分県立看護科学		○		○	
宮崎	○		○		
宮崎県立看護		○		○	
宮崎公立	-	-		○	
鹿児島	○		○		
鹿屋体育	○		○		
沖縄県立看護	-	-	○		
沖縄県立芸術	○		○		
名桜		○		○	
琉球	○		○		